

平成 24 年度カーティン大学英語研究報告書

工学部 電気電子工学科 3 年

渡邊 幸樹

東京で生活していると外国人と食事をしたり話したりする機会がドッと増え、また中国人と韓国人、イタリア人などが英語を使ってコミュニケーションを取っている姿に触発され僕も英語を話せる様になりたい。英語を話せないとダメなのだと思います。そんな中このカーティン大学英語研修の存在を知り、英語に対する意識向上と海外文化に触れるいいチャンスだと思い研修に応募しました。

この英語研修を通してまず感じたことは、3 週間という期間の短さです。研修中は英語を話さなくても周りには日本人が溢れているのでなんとかやっていけてしまいます。要は観光を目的としていくのであればパスでの 3 週間は十分すぎるほどの時間です。しかし英語能力の向上を目的として行くのであればあまりにも短すぎます。そこで 3 週間という限られた中で如何に英語に触れ、学ぶことが出来るかを私は考え今回の研修に臨みました。実践したこと、帰ってきてから後悔したことなどを含めながら 3 週間を振り返りたいとおもいます。

1.出発前

まずはスーツケースに必要な物を詰めます。ここでネックになるのが重量です。航空会社によってまちまちですが僕の時は最大 20Kg まででした。本来 20Kg を超えてしまったら手荷物に詰替えたり捨てたりしなければなりません。意外と航空会社は融通が効くみたいで 25Kg ぐらいまでなら大丈夫だそうです。パソコンを持って行きましたが僕には必要ありませんでした。スマートフォンがあれば十分です。ホストファミリーへのお土産は勿論買うと思いますが、学校で同じクラスになる友達へのお土産も買っていったら良いと思います。簡単なもので大丈夫です。僕は 100 均の箸を持って行きました。成田までのアクセスは東京方面からのアプローチであれば東京シャトルというバスを使えば 900 円で行けます。(東京駅発)

2.オーストラリアでの生活

オーストラリアは日本と季節が真逆のため、とても暑かったのを覚えています。町並み、道路はとても広く綺麗で日本車ばかりが走っていました。また、日本車も日本では売っていないものもあつたりと車好きの僕はとても興奮しました。日本に無くてとても画期的だと思った交通ルールは、全ての車がまず一旦左折し右折をする場合はぐるぐると回って右折する直接右折出来ないシステムです。直進する車も一旦は左折するので事故や渋滞が起きにくいナイスアイディアなルールだと思います。

ホームステイ先にはファミリーが二人と留学生が僕を含めて 5 人、計 7 人で生活することになりました。留学生が中国、ベトナム、アラブと多国籍で、留学生たちはまだパースに来て半年未満であり、英語が自国訛りであったため、コミュニケーションには辞書とホストマザーのリンダの通訳が必須でした。驚いたことに元々住んでいるファミリーのジョディとアラブからの留学生であるサラが付き合っていて、四六時中イチャイチャしていることによりかなりカルチャーショックを覚えました。ホームステイ先の家は 2 階建てのとても大きな家で、プールがあり、グランドピアノがあり、クルーザーがあるなどかなり裕福な家庭でしたし、オーストラリアは水不足でシャワーなどの制限を覚悟しておいたのですがその様な制限は無く、皆朝晩二回シャワーを浴びていました。ピアノを弾ける留学生がいたため、学校から帰ったら一緒にピアノをずっと弾いていました。

学校まではバスで 15 分かかり、バス停でバスを止めるためには手を挙げる必要がありました。また日本のバス事情とは異なり降りるバス停についてのインフォメーションが何も無いので降りるバス停付近の風景を覚えておかないと乗り過ごしてしまう事もあります。初めて行く場所へは予めバスの運転手に降りるバス停を伝えて教えてもらう必要があります。

学校の授業はレベルに応じてクラス分けがされており、僕のクラスでは基本的な文法をまずは確認し、そこから応用して他のクラスメイトとカンバセーションしていくという感じでした。主にオーストラリアの文化とクラスメイトの母国の文化について触れる内容が多かったと思います。クラスメイトには日本人の他にベトナム、中国、リビア、アラブなど多国籍で多くの国の言葉や文化について触れるととても有益な授業を受けることができました。授業は 3 時には終わるため、その後は友達とショッピングセンターやシティ、フリマントルに観光しに行く事が多かったと思います。

僕は今回の研修で兎に角英語に触れる機会を増やしたかったのであることを毎日実践していました。それは毎日 1 ページ英語で日記を書き、それをホストマザーのリンダやジョディに見せ添削してもらうということです。最初は前置詞や接続詞を直され、黒字で書いた日記にかなり赤い修正が入ってたのが、帰る頃には赤い修正は劇的に減り文章能力も上達したと実感できました。また、今までは辞書を使って単語を調べていたのですが日に日に日記を書く時は辞書を使わず、他の言い回しで書くことが出来る様になっていました。日記を書くことによってその日の事を口頭で話すよりも事細かに伝える事が出来る上、そこから話題も広がり会話が途絶える事なく気づいたらリビングでリンダと 4 時間も過していたなんてこともありました。もう一つ僕が家で過ごす上で行っていたことは、会話中に出てきた間違った言い回しや単語をその場で正しく直してもらう事です。そうすることで実際に使われているより実践的な英語を学ぶ事ができたし、口語を形で覚えて次回からスムーズにそのフレーズが出せる様になりました。また、発音についても根気強く取り組みました。ある日食事が終わったあと、僕がリンダに向かって「Are you full?」と発言した祭、一緒にいた留学生に「fool」と勘違いされちょっとした事件になったので、発音の間違

いはもしかしたら命も落としかねないと思った僕は会話中の言い回しや単語に加え、発音もいちいち指導してもらう事にしていました。

学校にも慣れてきた頃に僕の生活スタイルはおおよそ決まってきました。授業がある日はリンダも家族も18時まで家にいないので学校が終わった15時から18時までには日本人と一緒に色々な所を回ったり、日本語で気分をリラックスさせたりして18時過ぎには家に帰り、食事を済ませ、リンダと一緒に宿題や日記の添削、会話を3～4時間というスタイルです。

課外授業としてキングスパークの散策や動物園などに行く機会がありかなり充実したプログラムであったのですが、パースには他にもぜひ観光に訪れて欲しい場所があります。それはフリマントルの刑務所です。フリマントル刑務所は世界遺産にも登録されていて、囚人自身が建設したこと、つい最近まで囚人たちがずさんな生活を送っていたことで有名です。僕は一般的なツアーに参加したのですが、水曜日と金曜日にあるトンネルツアーには参加しませんでした。このトンネルツアーに参加しなかったことを今でも後悔しています。授業をサボってでも参加すべきであったと思うほど魅力的な場所です。詳しくはインターネットで調べてください。

パースの物価はかなり高く、850ドル換金したけどそれでは足りず、カード使用や現金を友達に借りたりしました。クレジットカードを作っておく事を強くおすすめします。JCBは日本ブランドであるため使える場所がとても少なく、大変な思いをするでしょう。トラベラーズチェックははっきり言って使えません。現地で全て現金に変えるハメになるでしょう。

オーストラリア人は基本的にとても優しいし気を使ってくれるのですが、日本人も優しく気を使う人種なのでお互いに気を使ってしまう思わぬ方向に事象が進んでしまう事が多々ありました。一つ目は、毎日の朝食。リンダは日本人は朝食に米と味噌汁を食べるのが当たり前だと思ってたらしく、毎日の朝食に僕だけ特別に米と味噌汁（味噌のみ具なし）でした。正直味は薄くただの「味噌香るお湯」で、それで米も食べなければいけないのが辛かったが、気を使ってくれているのだからと思い周りの留学生の好奇心な目にもその味にも耐えていました。最終的には他の留学生がリンダに注文をつけてくれてこの苦痛から開放されたのですが、他の留学生にもリンダにももっと自分の意見を言ってもらわないと困ると怒られました。もう一つの事件が、洗濯を巡るトラブルで、これも僕が自分の意見をしっかり言わなかった事が原因で僕の服は朝の時点で全てビショビショで、学校へは水着で行ったという事件もありました。

また、僕は都市大生との連絡手段を確保するために、ラインアプリを使って今回研修に参加している人のほとんどとグループを作り、情報共有を行っていました。このラインアプリはかなり有効なツールであったし、帰国したあとも情報共有や他愛のない会話に利用するなど出来るのでオススメです。

研修中には都市大の学長も授業を覗きに来てくれ、英語で学長と会話するなど刺激的な事もありました。そこで僕は学長に 3 週間の研修はあまりに短いので 1 年留学のプランを作るべきである旨を伝えました。都市大は英語教育に力を入れていると謳っているので今後の対応に期待しています。

3. 帰国と変化

帰国する際、自然と大量の涙が溢れてきました。3 週間と短い時間ではあったのですが、リンダやジョディ、他の留学生などと濃い時間を過ごせたことが走馬灯のように浮かび 21 歳の男がリンダにすがり付きながら別れを惜しんだのは向こうの人たちには大きな衝撃を与えてしまったと思います。

僕自身の英語能力的な変化としては、英語の文章を組み立てる時に 1 ヶ月前に比べてスラスラ書く事が出来るようになっていた事です。ちょうど手元にこの英語研修参加にあたって書いた意気込み書の控えがあったので読んでみると、今の自分だったらここはこう言う書き方にするだろう、ここの言い回しはもう少しこうするだろうと違う文章がポンポンと浮かんできたのには驚きました。また以前から仲の良い外人と久しぶりに会い英語を話してみると、発音も良くなったし、すぐに言葉が出てくるようになったねと褒められました。あまり自分では気づかなくても 3 週間でしっかり自分は英語を向上させる事ができたと実感した瞬間でした。

気持ちの変化としては、まず第一に英語をもっと勉強したと強く感じるようになったことです。学校の授業時間表を見てみると英語についての授業が意外と多い事にもう 4 年生になるのに今更気づきました。積極的にこれらの英語授業に参加したいと強く思うようになり、以上の事からもこの 3 週間がいかに有益な研修であったかを実感しています。

3 週間の使った方次第では大きく英語の変化に差が出ると思います。なので、しっかりと自分で情報収集とプランを立て、必ず決めたことを遂行するという強い気持ちでこの英語研修へ参加してもらいたいです。

以上が僕の 3 週間。この 3 週間は僕の心身を大きく変え、価値観を育て、今後の将来に多大な影響を与えるであろう 3 週間であったことは間違いありません。